

教育実践総合センターニュース

NO. 8 2014年 3月

目次

あいさつ センター長 岩川 直樹…………… 1	教育実践研究部門より…………… 3
『教職員キャリアアップ・サポートセミナー』… 2	学校臨床心理部門より…………… 4
『教員メンタルサポートプログラム』…………… 2	教員養成開発部門より…………… 5
「ストレス・マネジメント実践講座 アドバンス コースを実施しました！」…………… 2	おしらせ・スタッフ・アクセス…………… 6

対話的な共同探求の場の創造

センター長 岩川 直樹

現代社会において、私たちはあまりに多くの「いい教育」の「答え」に囲まれて生活している。こうすればいいというあれこれのノウハウが、教育行政をとおして標準化され、教育産業をとおして商品化され、教育メディアをとおして情報化されているからだ。社会の不安定な変動期、人びとの孤立と不安が増せば増すほど、一方には、いい教育の「答え」を知っているし、それを効率よく教えることができる人と称する人びとが現れ、他方には、いい教育方法の「答え」を求め、それを効率よく教わりたくと願う人びとが現れる。しかし、いくつもの既成の「答え」に囲い込まれることは、必ずしも具体的な状況のなかでの実践的探求そのものを共に深めることにはつながらない。

ソクラテス（前470-前399）が生きた古代ギリシアの時代も、ある意味でそれは同じことだった。古代ギリシアの社会変動期に職業的知識人として活躍したソフィストたちは、人間的・市民的な人格の卓越性を意味する「徳（アレテー）」を言葉で巧みに教えることができると称していた。プラトンが描く『メノン』のなかには、ソフィストの教えにふれたメノンという青年が登場する。彼は、ソクラテスに、「徳は教えられるものなのか」と尋ねる。人間の人格的卓越性というものは、生まれつきのものなのか、言葉で教えられるものなのか、それともそれ以外の仕方

で形成されるものなのかと。ソクラテスの答えは、メノンにとって意外なものだった。自分は徳が教えられるかどうかはもちろん、そもそも徳とはなにかさえ知らない。そして、いまだかつてそれを知っているひとに出会ったことさえないと語ったからだ。納得できないメノンは、徳がなにかぐらいはぼくでも知っていますよと言いながら、男の徳はこれこれであり、女の徳はこれこれであり、ほかにも市民の徳や奴隷の徳など挙げればいくらでもあげられますと語りだす。現代風に言えば、メノンは「男力」、「女力」、「市民力」、「奴隷力」を並べ立てたことになる。それらの「答え」には、その時代のギリシアの慣習だけではなく、明らかにソフィストの言説が反映されていた。

それに対して、ソクラテスは、性別や身分のちがいにあれこれの徳を並べ立てるのではなく、人間そのものの人格的卓越性とはなにかを語ってほしいのだからと問い返し、そこから二人のあいだの間答が展開されてゆく。そこでの対話の行方がどこに向かってゆくのか、そして、こうした言葉の定義を求める対話だけでどこまで行けるものなのかはさておき、ここでは、この対話のなかでソクラテスが一貫して青年メノンに呼びかけているひとつの姿勢に着目しておきたい。ソクラテスはメノンに、あれこれの「答え」を受け売りするのではなく、自らの問いを覚醒させること、そしてそれを共に探求することを一貫して呼びかけている。

人間の教育という複雑な奥行きをもった主題に対して、教育の探求は、ソフィスト的な「答え」を示す言説の技術ではなく、むしろ、ソクラテス的な共同探求の倫理に連なるべきものだろう。

具体的な状況の内側から、他者たちと共に、なにがほんとうにいい教育なのかを探求し合ってゆくとともに、教育実践センターは、教師と研究者と学生とのほだまに、その意味での多様な共同探求の場を創造する役割を担っている。

『教職員キャリアアップ・サポートセミナー』

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターでは、平成23年度より、地域貢献の一環として、さいたま市の教職員を対象とする研修会「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」を実施しています。

「教職員キャリアアップ・サポートセミナー」は、臨時的任用教員を中心とした全ての教職員を対象に、さいたま市の教職員全体の資質能力の向上を図るとともに、非正規採用の教職員が自信を失うことなく正規採用教員へと向かっていくことができるよう支援していくことを目的としています。

平成25年度は、テーマを学校教育における現代的課題のうち、発達障害のある児童生徒への支援に絞って10回のセミナーを実施しました。

回	実施日 〈15：00～17：30〉	テーマ
1	6月 1日（土）	通常学級における特別支援教育
2	6月15日（土）	学校巡回相談支援からみえてきた課題
3	7月20日（土）	教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル
4	9月14日（土）	発達障害のある児童生徒の保護者にできる教師の支援
5	9月21日（土）	発達障害のある児童生徒のストレス・マネジメント
6	10月19日（土）	発達障害のある児童生徒への学習指導
7	11月16日（土）	発達障害のある児童生徒の進路と就労
8	12月 7日（土）	発達障害と非行・問題行動
9	1月25日（土）	二次障害としての不登校対応
10	2月15日（土）	事例研究

『教員メンタルサポートプログラム』

埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターでは、平成25年度、地域貢献の一環の新たな取り組みとして、さいたま市の教員が心の健康を維持することができるよう支援することを目的に、「教員メンタルサポートプログラム」を実施しました。

本プログラムでは、対象を学部4年次または大学院在学中にさいたま市立小・中学校等教員採用選考試験に合格し、卒業後すぐに教職に就いた2年次の教員とし、該当者が参加しやすい夏季休業中に1時間程度面談を行いました。参加者からは、「丁寧に話を聞いてもらえてよかった」「気持ち楽になった」「頑張っていこうと思った」などの感想が聞かれ、本プログラムが好評であったことが窺えました。

『ストレス・マネジメント実践講座 アドバンスコースを実施しました!』

「人間形成総合科目：ストレス・マネジメント」授業の内容を、さらに特化した単発講座です。今年度は2回行い、学部生、大学院生が参加しました。体験とグループワークが中心の講座なので、「实际的、具体的でわかりやすかった」「普段の生活ではなかなか体験できない内容で楽しかった」「学んだことを日常生活に活かしたい」といった感想が多く、好評でした。来年度以降も開催する予定です。

第1回「見つけよう、自分色（パーソナルカラー）！

～好きな色は似あう色？～

2月20日（木）13時～16時半（カリリスト 大貫いつき先生）

第2回「ストレス・マネジメント入門

—認知的対処とリラクゼーション実習—

2月18日（金）13時～16時半（筑波大学 杉江征先生）



教育実践研究部門

教育の臨床の学の探求

実践者・授業者としての
専門性の探究

- 「学ぶこと」のヴィジョン
- Action のリフレクション

教師の授業実践と 子どもの学びを支援

教室の
アクション・リサーチ
実践知の省察

学生・院生も含めた相互共有

プロジェクト研究

教室の学びとつながりを
編み直すための基礎研究

- 教室の子どものナラティブを
見とることから、関係性を編
み直す
- 学びの「材」を読み深めること
から教師・教材・子どもの関係
性を編み直す

平成25年度

アクション

・リサーチ連携校

- ・鶴ヶ島市立南小学校
同 南中学校
- ・熊谷市立中条中学校
・同 大幡中学校
- ・本庄市立本庄西中学校
- ・上里町立上里中学校
- ・須賀川市立西袋第一小学校
- ・宇都宮市立陽東小学校
- ・茅ヶ崎市立浜之郷小学校
同 鶴が台・香川小学校
- ・富山市立奥田小学校
同 大広田小学校
- ・伊丹市立天神川小学校
- ・富士市立元吉原中学校
同 田子浦中学校
同 富士川第二中学校
- ・富山市立岩瀬中学校
同 北部中学校

学校改革・授業改革

- 「聴き合う」「学び合う」学び
- 「探究」と「対話」による学び
- 「同僚性」の構築
- 「アクション」～市民性への学び

平成25年度 研究員

- 守屋 淳 氏
北海道大学大学院教育学研究院
- 高橋 美保 氏
東京大学大学院教育学研究科
- 能智 正博 氏
東京大学大学院教育学研究科
- 霜村 三二 氏
元朝霞市立朝霞第十小学校教諭
- 本谷 宇一 氏
日本生活教育連盟「ことばと教育」
部会代表世話人
フレネ教育研究会 会員
- 中村 麻由子 氏
東京学芸大学大学院連合学校教育学
研究科教育方法論講座
日本学術振興会特別研究員

「木曜ゼミ」

ビデオによる授業カンファレンス

- 木曜日 午後6時
- クリニコス・ホール
(コモ棟2F)

県内外の小・中学校の授業実践の
ビデオを見て、語り、学び合いま
す。

多様な視点の交流により、教師の
実践知を学び合いましょう。

**参加希望の方は、
事前にご連絡を。**

さいたま市の「教師力パワーアップ
講座」と連携して、「第3金曜」に
も行う予定です。

Narrative Standard の開発

協働生成・形成的スタンダード

1. 授業と学びを物語ること
2. 形成的評価＝発展開発機能
3. カリキュラム開発機能
4. 同僚性を構築すること
5. 授業者としての身体性
聴く ～ 対話
声～Elaboration～交響
レッスンの場としての機能
6. 大学が役割を果たしつつ、
学校コミュニティの場創り

【センター長 & 部門 共同研究会】

「先生という仕事
～その困難と希望を語り合う」
12月26日(木)

【JICA インドネシア国 教員養成機関 指導者育成 講座】 11月6日(水)

JICAプログラムの一環として来校したインドネ
シアの大学研究者と教育文化省の管理官、計31名
に、「日本の授業研究」や「大学と学校現場との
連携」について、講義やワークショップを行いま
した。

学校臨床心理部門

本部門は従来、学部教員養成に関わる活動、附属学校園との連携強化、研究活動、地域貢献に力を入れています。今年度は、学校教職員を対象とした支援活動・研修機会の提供の他、センター内の部門連携にも力を入れて活動を行いました。また、研究員や附属特別支援学校の教員らとの共同研究もテーマの幅を広げ、学会発表や論文で成果を発表しました。

◆学部学生への指導・支援

1. 人間形成総合科目「ストレス・マネジメント」の実施

『人間形成総合科目』「ストレス・マネジメント」は開講6年目を迎え、当部門の教員2名と教育実践研究部門の教員1名の3名がオムニバス形式で担当しました。「教職とストレス」では教員養成開発部門の教員2名をゲストスピーカーとしてお招きし、「ストレスとのつきあい方」では音楽教育講座の教員にプロの演奏家としてのストレスとのつきあい方などを、ピアノ演奏を交えてお話しいただきました。今年度も学生には好評で「自己理解が深まった」「自分のストレスとどう向き合うかを考える良い機会になった」「学んだことを生活で実践していきたい」などの感想が寄せられました。

2. 「ストレス・マネジメント実践講座アドバンスコース」の実施

上記授業のアドバンスコースとして、今年度も外部講師をお招きして、ストレス・マネジメント実践講座を2月に2回開催しました。

- ・第1回「見つけよう、自分色（パーソナルカラー）！～好きな色は似あう色？～」

2月20日（木）13時～16時半

講師：カリリスト 大貫 いつき 先生

- ・第2回「ストレス・マネジメント入門—認知的対処とリラクゼーション実習—」

2月28日（金）13時～16時半

講師：筑波大学 杉江 征 先生

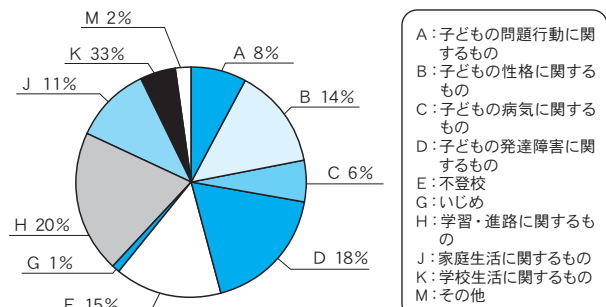
◆附属学校園との連携

1. 附属学校園の児童・生徒、保護者、教員やスクールカウンセラーを対象とした相談活動

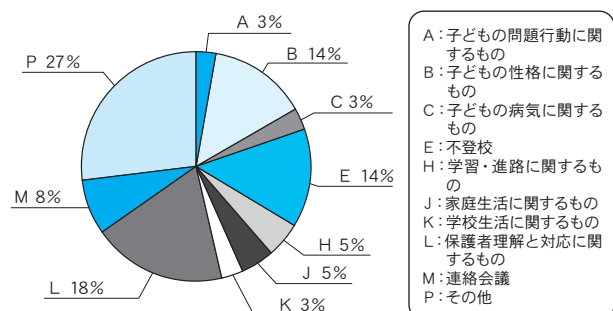
この相談活動は、附属学校園との連携の主軸であり、附属中学校に配置されたスクールカウンセラーとも連携を図りながら、相談活動を行っています。附属小学校との連絡会議や、附属特別支援学校内相談機関「しいのみ」との学校巡回支援も実施しています。

今年度の相談およびコンサルテーションの内容と割合は以下の通りです（2014年1月末日現在）。

相談内容



コンサルテーション内容



◆さいたま市（教育研究所）とのコラボレーション講座の開講

教育実践研究部門とともに、「教職員のためのメンタルヘルスとリラクゼーション講座」を毎月開講しています。また、教員養成開発部門と共同で「教員キャリアアップ・サポートセミナー」を10回開講しました。このセミナーは、独立行政法人教員研修センターの「平成25年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム」の受託事業として、さいたま市立小・中・特別支援学校に勤務する教員と臨時的任用教員、さわやか相談員、学級支援員、学生らを主な対象に行われました。

好評だったので、来年度も開講を予定しています。

◆さいたま市とのコラボレーションによる取り組み

新たに、教員養成開発部門と共同で、さいたま市立小・中・特別支援学校の若手教師を対象に「教員メンタルサポートプログラム」を実施しました。アンケートの結果は好評でした。

◆研究活動

研究員と共に取り組んだ研究報告は以下の通りです。

- ・「フィンランドにおける特別支援教育」尾崎啓子（「人間研究」第50号印刷中）
- ・「若手教師のメンタルヘルスのための実践的取り組みの検討」棕田容世・小野圭司（センター紀要第13号印刷中）
- ・「国立大学と附属学校園における教育相談活動に関する連携」尾崎啓子・相澤直子（センター紀要第13号印刷中）
- ・「高校2年生における自己効力感の形成について」若海由美・尾崎啓子（センター紀要第13号印刷中）
- ・「学校カウンセリングに関する国立大学と附属学校園との連携」相澤直子・尾崎啓子（センター紀要第13号印刷中）
- ・「学校校舎における木材利用の現状」長南あずさ・尾崎啓子・浅田茂裕（センター紀要第13号印刷中）

教員養成開発部門

「教員養成開発部門」は、今年度も引き続き、埼玉県及びさいたま市教育委員会と連携し、教員養成の充実、教員の資質能力の向上等について、より一層実践的な研究及び活動を行っています。

1 教育委員会との連携を視野に入れた「学校フィールド・スタディA」の実施

大学と学校現場との学びを往還的につなぎ、質の高い教員としての資質能力を養成する目的で実施している本授業は、本年度も引き続き、学びのフィールドを幼稚園・保育所、小・中学校、高等学校に確保し、学生の体験の充実を図ってきました。本授業を推進する観点から、以下の活動を実施しています。

○事前授業の実施（4月・10月）

○実施校への視察と協議の実施（1月）

○振り返り授業①②の実施（10月・1月）

○学習相談、補充授業の実施（適宜）

特に、振り返り授業①②では、指導者として埼玉県・さいたま市教育委員会の方に御講義をいただいたり、グループ協議の中で指導講評をいただいたりしています。



【グループ協議の様子】

2 進路指導委員会、教職支援室との共催による教職支援セミナーの実施

教職支援セミナーは、教員としての職務を円滑に進めることができる能力や、教員としての見方・考え方等の資質の育成を図ることを目的としています。

教育に係わる国の動向、埼玉県・さいたま市教育委員会の推進する教育施策、学校現場の抱える様々な課題、服務と教育法規等についての講義を実施しています。

主として、前期には4年生対象プログラムを、後期には3年生対象プログラムを実施しています。各プログラムともおよそ300名の学生が参加し、教職に対する理解を深める機会となっています。

3 教職スタート準備講座の実施

卒業後、教職に就く予定の学生を対象に、実践的な能力の習得を目指し、10月から2月までの間、約100名の学生が参加し、セミナーを実施しています。即戦力を身に付けさせ、質の高い教員として学校現場で活躍できるよう、以下のとおり、プログラムを一層工夫し開催しています。

《プログラム例》

- ・教師の一日と学校の一年間
- ・保護者対応
- ・学校事故への対処
- ・生徒指導の基礎基本
- ・教科等の授業づくり（ICTの活用を含む）
- ・発問、板書、ノート指導の工夫
- ・学級事務、学級通信
- ・学級開きと保護者会 等

なお、講師については、教育委員会、附属学校教員をはじめ、学校教育の第一線で活躍されている方を招聘しています。



【授業の様子】

4 さいたま市立小中学校の研究発表会への学生参加

さいたま市教育委員会の協力の下、さいたま市立小中学校研究発表会への参加を促し、教育実践や学校研究に触れる機会を設けています。

平成25年度は、現在まで、およそ100名という多くの学生が参加し、学校現場に触れ、指導方法等への興味・関心を深める機会となっています。

＝ センターの基本理念・目的 ＝

(1) 教育の臨床の学の探求

人間と人間の関係性を軸にした教育実践の本質を、理論的・実践的に探究し、確立をめざす。

(2) 教育の臨床の学にもとづく教育実践への具体的関与

(1)に基づき、学校、地域・社会における教育実践・心理教育相談に直接的に関与する。

(3) 教員養成の研究と教育

(1)に基づき、現職教育を含む教員養成の研究を行い、学部教員養成を直接的に支援する。

(4) 教育実践の連携媒体としての機能

地域・社会教育と連携し、学内外の教育にかかわるさまざまな立場、諸機関・組織をつなげ、連携の媒体となるとともに、学部教員養成の媒体的機能を果たす。

スタッフ

センター長……………岩川 直樹
教育実践研究部門……………庄司 康生・北田 佳子
学校臨床心理部門……………尾崎 啓子・椋田 容世
教員養成開発部門……………伊藤 秀一・小野 圭司

客員教授（教員養成開発部門）
小杉 和子・鬼塚真知子

兼任教員……………岩川 直樹・船橋 一男
野村 泰朗・宇佐見香代
磯田三津子・澤崎 俊之
堀田 香織

事務補助員……………穴戸 珠美

施設（貸出）使用の手続き

1. 使用を希望する人は、あらかじめセンター事務室に連絡し、希望する日時の使用予定状況を確認した後、「使用許可申請書」を事務室に提出する。

センター事務室担当者は、原則として火、水、金曜日に在室です。

2. 鍵の受け渡し

【学部教員の場合】

事務室の担当者と受け渡しの日時を確認の上、正面玄関の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用当日（当日が不可能な場合はできる限り速やかに）に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。

【附属学校・園教員の場合】

使用の直前に、附属小学校教員室に、2階出入り口の鍵を受け取りに来る。鍵貸出簿に署名し、貸出時刻を記入する。使用直後に返却し、貸出簿に返却時刻を記入する。

3. 使用設備など

使用後は清掃を行い、使用した設備等は原状に復帰する。

4. 火気、施錠の確認

使用者の責任において、使用後の火気の始末、施錠を確認する。

アクセス



埼玉大学教育学部附属教育実践総合センターニュース

No.8 2014年3月14日 発行

編集・発行 埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤6-9-44

Tel.048-832-9866 Fax.048-831-0044

<http://www.center.edu.saitama-u.ac.jp/>